

株式会社アイ・ティ・フロンティアは、同社のデータ・センターを利用する企業ユーザーを対象に、大規模なストレージを提供するストレージ・サービス・プロバイダー事業を開始しました。ストレージ・システムにはSANを採用、高い信頼性が求められるプロバイダー事業を支えています。

SOLUTIONS

概要

●技術的課題：

データ・センターを利用するユーザー企業を対象に、大規模な最先端ストレージを提供するストレージ・サービス・プロバイダー（SSP）事業を開始する。

●ソリューション：

データ・センター内のユーザー企業システムと、SSP事業のストレージ・システムをブロードコミュニケーションズシステムズのファブリック・スイッチで接続したSANを導入

●成果：

- ・高速、高可用性、高拡張性というSANの特徴通りの結果が得られた
- ・導入作業が容易だった
- ・バックアップの運用が安定した

アイ・ティ・フロンティアがSSP事業で高い信頼性と可用性を評価しSANを導入

株式会社アイ・ティ・フロンティアは、三菱商事の関連IT企業であった三菱事務機械、エイ・エス・ティ、アイティコマース、エム・シー・テクノサーブ、シリウスの5社を統合する形で2001年4月に設立されました。三菱商事の基幹システムの構築、運用を手掛けた実績を生かし、企業のビジネス戦略をITによって具現化する「コマース・エンジニアリング」という手法を中核に、システム・インテグレーション事業を幅広く手掛けています。特に、ドイツSAP社の「R/3」などのアプリケーション群を中心としたERP（Enterprise Resource Planning）システムの構築には多くの実績を持ち、システムの導入、コンサルテーション、教育から運用、サポートにいたるまでをトータルに提供しています。

システム・インテグレーションとともに同社の柱になっているのが、インターネット系サーバーのハウジング・ホスティング、ネットワーク・サービス・プロバイダー、カスタマー・サポートなどのITサービス事業です。中でも、情報システムに関連する機能を長期的・継続的に責任を含めて受託するアウトソーシングは、三菱商事におけるシステム運用実績を中心として、高い信頼性と多くの実績を誇る同社の主力事業になって

おり、データ・センター拠点の増設、同社の主要株主である日本アイ・ビー・エムをはじめとする有力ベンダーとの提携など、サービス提供範囲の拡充に積極的に取り組んでいます。

最も成長が期待されている SSP事業に新規参入

アイ・ティ・フロンティアは2002年7月、大規模な最先端ストレージを提供するストレージ・サービス・プロバイダー（SSP）事業に参入しました。これは、同社にシステムをアウトソーシングしている企業、または同社のホスティング・ハウジングなどのサービスを利用している企業を対象に、高速・高信頼性のディスク・ストレージの一部をユーザー企業が必要とする容量に応じて貸し出すというビジネスです。

インターネットを通じた企業間商取引（B2B）やeコマース、ブロードバンド向けコンテンツ配信など、企業が扱うデータ量は増大の一途をたどっており、それを保存するストレージの重要性は日を追うごとに高まっています。アイ・ティ・フロンティアでも、SSP事業を最も成長が期待されている分野と位置付けています。なお、同事業は、三菱電機の関連会社である三菱電機インフォメー

 BROCADE

 **iFrontier**
Commerce Engineering

ションシステムズ株式会社と協業しています。アイ・ティ・フロンティアが運用管理、サービス販売、ユーザー窓口などの業務を担当し、三菱電機インフォメーションシステムズがシステム構築と運用支援の面からサービスに協力するという体制になっています。

**初期投資を抑えられるSSPは
災害対策としても有効**

アイ・ティ・フロンティアのSSP事業には、さまざまな特徴とユーザー・メリットがあります。第一に、システム構築の設計・導入、運用時の監視・保守などの作業をアイ・ティ・フロンティアに委託することで、ストレージ・システムを自社で所有・管理する場合と比較して大幅なコスト削減が見込めるといえます。ストレージの増強が急ぎ必要になった場合でも、必要な容量のストレージをすぐに追加、利用できるため、初期投資を抑えることが可能です。

また、企業が自社でストレージを所有する場合、ディスクに障害が発生するとシステムが停止してしまう可能性があります。アイ・ティ・フロンティアでは24時間365日の監視体制で運用管理を実施しているため、こうしたリスクを回避することが可能です。さらに、ストレージ・システムが堅牢なデータ・センター内に設置されているため、災害対策としても利用することが可能です。

**自社で所有する場合と比較して
年間20%のコスト削減効果がある**

SSPのサービスでは、迅速なリストアとデータの世代保管に対応し、ディスクとテープへのバックアップを行う構成からバックアップ・レスの構成まで、企業のニーズに応じて4段階のメニューを用意しています。10GB当たりのストレージ管理サービス料金は月額5万円からという非常にリーズナブルな設定です。

同社の第1号ユーザーである三菱商事株式会社

社は、基幹システムの外部ストレージとしてSSPのサービスを利用しています。ストレージ・システムを自社で所有する場合と比較して年間20%のコスト削減と、ディスク障害のリスク回避をサービス採用の効果として挙げています。

**高速、高可用性、高拡張性に加え
導入が容易なことからSANを採用**

SSP事業を開始するにあたり、アイ・ティ・フロンティアは同社が所有するデータセンターの一つである三鷹サービス・ソリューション・センターにストレージ・システム「IBM TotalStorage エンタープライズ・ストレージ・サーバー (ESS)」を設置しました。このストレージ・システムは、プロセードコミュニケーションズシステムズのエンタープライズ・ファブリック・スイッチであるSilk Worm 2800を介し、SANによって接続されています。

ESSは、AIX、Solaris、HP-UX、Windowsなど主要サーバーOSをすべてサポートしているので、あらゆるプラットフォームのサーバーに接続できます。また、瞬時にアプリケーションをコピーするFlashCopy機能を備えており、バックアップ時のシステム停止時間を数秒から数10秒単位にまで短縮できるという特徴があります。

ストレージ・システムの容量はユーザー領域とバックアップ領域がそれぞれ6.7TB、総容量は13.4TBです。プロセードコミュニケーションズシステムズのファブリック・スイッチを含めすべて二重化されており、障害対策も万全です。ストレージ・システムにSANを導入したのは、高速、高可用性、高拡張性に加え、導入作業が容易なこと、バックアップを安定して行えることなどを評価したためです。サービス・プロバイダーという高い信頼性が求められる事業は、SANによって支えられていると言っても過言ではないでしょう。